

## 編集後記

埼玉県環境科学国際センター報は、県民並びに関係諸機関にセンターの活動を紹介するための情報源としてだけでなく、環境情報の収集・発信のための媒体としての役割があります。センターは平成12年4月に活動を開始しており、本報(第23号)は、23年度目に当たる令和4年度の活動を記録したものです。

令和4年度は、研究企画室に生物多様性保全担当が設置され、希少種保護や地域保全活動の支援など、これまで県みどり自然課が取り組んできた事業の一部を実施しています。また、これに合わせて開設された埼玉県生物多様性センターでは、生物多様性保全担当の職員、自然環境担当の研究員を中心に埼玉県生物多様性保全戦略の推進、生物多様性保全を進める関係者の連携・情報共有、さらには生物多様性関連イベントの実施やSNS等による情報発信を積極的に行っています。

社会実装化の面では、これまでの調査・研究で得られた成果を社会還元するため、産官学民の多様なステークホルダーが交流する環境総合展「エコプロ2022」に初めて出展しました。

新型コロナウイルスの蔓延により減少したセンター利用者数は、社会科見学、イベント参加者、展示館来場者を中心に前年度よりも回復傾向にあり、新型コロナウイルス禍以前の状況に近づきつつあります。

今後、センターではカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブなどを念頭に置き、地域社会とのつながりを大切にしながら、良好な環境づくりに取り組んでいく所存です。

本報は、印刷原稿の作成までをセンター全職員の参加により行ったものですが、編集方針・内容の決定、具体的作業に当たっては、下記の編集委員会がその任を負っています。

令和5年10月

編集委員一同

### 〈編集委員会〉

茂木 守 (研究推進室長)	三輪 誠 (研究推進室)
長谷隆仁 (資源循環・廃棄物担当)	金子一代 (事務局)
横塚敏之 (研究企画室)	河野なつ美 (温暖化対策担当)
松本利恵 (大気環境担当)	村田浩太郎 (大気環境担当)
安野 翔 (自然環境担当)	落合祐介 (化学物質・環境放射能担当)
木持 謙 (水環境担当)	石山 高 (土壌・地下水・地盤担当)

### 〈協力者〉

八戸昭一 (研究企画室長)	嶋田知英 (温暖化対策担当)
---------------	----------------

埼玉県環境科学国際センター報

第23号 令和4年度

令和5年10月31日発行

発行:埼玉県環境科学国際センター